

令和5年3月19日 愛知県歯科技工士会学術大会

ADTA トレーニングセンター第8期修了式

日技生涯研修(基本課程)

厚生労働省・歯科技工士の人材確保対策事業認可講習会

日比教授：講演抄録

演題：感染から身を守る：対策はどこまでどのように

抄録：次々に開発される抗菌薬やワクチンにより感染症は克服された感があったのは数年前までで、いまあらためてその脅威にさらされています。その対策において歯科は従前にも増して注目されます。感染対策は一般から医療レベルまで、医療ではリスクに応じて講じられています。この概念はガイドラインなどで整理されてきましたが、その実効性は不確かです。診療所から技工所へ、技工士から患者さんへ受け渡されるものについてどのような配慮をすべきか、技工士だけでなく患者さんにとっても有益な感染対策について、環境面から予防歯学的配慮まで考えてみましょう。

日比英晴

国立大学法人東海国立大学機構

名古屋大学大学院医学系研究科頭頸部感覚器外科学講座顎顔面外科学 教授

名古屋大学医学部附属病院歯科口腔外科 診療科長

〒466-8550

名古屋市昭和区鶴舞町 65

Phone 052-744-2345, Fax -2352

令和5年3月19日

(一社)愛知県歯科技工士会令和4年度学術大会

ADTA トレーニングセンター第8期修了式

厚生労働省・歯科技工士の人材確保対策事業認定

演者：三浦大輔 株式会社ハナキューデンタルラボ

演題 診断用 WAXUP の重要性

抄録

私が日頃から歯科技工士として意識しているのは、製作した技工物が口腔内において審美的・機能的に安定し、患者自身が長期にわたり快適な生活を送れているかということである。そのためにはチェアサイドとの連携、すなわち審査診断の共有を確実に構築することで自身が歯科技工を行い易い環境を作ることができる技工の1つが診断用 WAXUP であると考えます。

私は診断用 WAXUP を行う上で決して高度なテクニックは必要なく、基本的な技術や知識で歯科医師から得た情報を基に製作することは可能であると考えます。

そこで今回は、診断用 WAXUP を行う上で歯科医師からどのような情報が欲しいのか、そしてその情報をどのようにして診断用 WAXUP に繋げるのかを述べたいと思う。それにより歯科技工のやりがいや楽しさ、存在意義を少しでもお伝えしたい。